

# 野外活動によって生起される男女共同参画型思考についての一考察

## —ジェンダーの観点をふまえた異性への肯定的な気付きに関する質的研究—

武藤美乃里 (東京学芸大学)

### 1. 目的

本研究の目的は、野外活動においてジェンダーの観点をふまえた異性への肯定的な気付きにはどのようなものがあり、その生起要因は何であるかについて知見を見出すことである。

その目的を遂行するために、次の二つのリサーチクエスション (RQ) を設定した。

【RQ1】 野外活動において生起する、ジェンダーの観点をふまえた異性への肯定的な気付きにはどのようなものがあるか。

【RQ2】 RQ1 における要因や気付きのプロセスはどのようなものか。

### 2. 研究方法

- 1) 対象者：東京学芸大学の集中授業科目である「野外環境教育実習」の参加者 6 名
- 2) 調査方法：フィールドノート作成、研究対象者へのインタビュー、実習中の内省記録などの関連データの収集。
- 3) 分析方法：上記の質的データについて、セマティック (カテゴリー) 分析によって得られた結果を基に考察を行った。

### 3. 結果と考察

- 1) 当該実習を通して、性別に対する考え方や、異性との関わり方に関する肯定的な気付きが生起した様子が見られた。
- 2) 当該実習中に、自身が性別に関わらずに様々な役割を担うことが、異性への肯定的な気付きの生起要因となると推察された。

### 4. 結論

- 1) RQ1 について：「① 性別のとらえ方」と「② 異性との関係性」の二つに分類できる気付きが生起された。

#### ① 性別のとらえ方

ジェンダーに関する社会的風潮等への気付きである「社会的な気付き」、それぞれの性に対する概念の変化である「性別観の変化」、自身が性別に関する固定観念を持っていたことへの認識となる「自己への気付き」、また異性と違いがあることを再認識する「性別観の再認識」の気付きが見られた。

#### ② 異性との関係性

性別よりも人の個性を重視する「個の尊重」、性別による隔たりが減少した「ジェンダーフリーな異性との関係性」、またそれぞれの性別の特徴を考慮することを重視する「性別を意識した異性との関係性」についての気付きがあった。

- 2) RQ2 について：「① 実際の役割」、「② 性別のとらえ方」、「③ 異性との関係性」の三点が見い出された。

① 実際の役割：性別的役割によらず役割を分担した「ジェンダーフリーな役割」や、その行動の基盤になった「性別的役割によらない分担方法」、また「性別的役割」や男性による女性への「気遣い」の点が要因として見られた。

② 性別のとらえ方：他のキャンパーの様子を見ることが、男女関係なく協力したこと、身体活動によって体力差を実感すること、等の点が要因としてあった。

③ 異性との関係性：自然豊かな環境、多くの時間の共有、性別観の再認識、等の点が要因として見い出された。

### 5. 主な参考文献

- 1) 小森伸一 編, 野外教育の理論と実践, 杏林書院, 2011.